

地域共創活動

取り組みの背景・考え方

Daigasグループは地域に根ざした事業を営んでおり、地域の皆さまとの良好な関係なくしては、経営は成り立たないと考えています。事業をご理解いただくために積極的に情報を開示し、経営の透明性を高めるとともに社会とのコミュニケーションを推進します。また、当社グループの経営戦略と親和性の高い地域コミュニティとの共生に資する活動を推進していきます。当社グループが事業活動で培ってきた知見や資源を活かし、行政活動への提言や協力、地域との共創活動に努め、地域の価値創造に取り組んでいます。

当社グループの各取り組みの詳細は社会貢献サイトで紹介しています。



▶ [社会貢献サイト](#)

■ 活動事例

テーマ	活動例	
行政活動(まちづくり構想等)への参画	●まちづくり提案を通じた自治体によるSDGs推進活動の支援	●各種団体・自治体主催の審議会・委員会等への提言・参画
地域との共創	●都市の魅力づくりに関する第三者との研究活動 ・上町台地今昔フォーラムイベント開催 ・語りベシアター制作 ●NPOや社会起業家との協働活動 ・「マイプロSHOWCASE関西」を通じた社会課題の発信 ・マイ大阪ガス「Social Design+」によるNPO支援 ●“小さな灯”運動主催「ふれあいバザー」等の開催	●自治体・NPO等と連携した高齢者活動支援 ●従業員によるWell-beingな社会づくり活動の支援 ・「Talkin' About YOUTH」「わたしプロジェクト会議」開催 ・「ソーシャルデザインDAY」開催 ●行政・第三者と連携した地域活性化活動 ・Talkin' About活動 ・イストワール事業
その他の活動 (次世代教育・消費者対応等)	●エネルギー環境教育 ●防災教育・火育^{ひいく} ●食育活動 ●消費生活団体・消費生活センター対応	●「NOBY SPORTS CLUB」活動 ●大学での講義・講演活動 ●運動クラブによる地域清掃 ●野球・陸上教室等の開催

■ 社会貢献活動費

2025年度 275百万円

まちづくり

Daigasグループは、エネルギー事業者としての使命感を持って環境の保全に取り組むとともに、人々の暮らしと密着した事業を展開し、地域との共生を目指しています。「エネルギーのカーボンニュートラル化」や「お客さまと社会のレジリエンス向上」をマテリアリティに掲げており、地域の環境・防災に配慮したまちづくりや健康等の生活分野への協力・提言など、事業活動と社会貢献活動を通じて、社会の安心と安全の向上を目指した取り組みを行っています。

研究活動を通じた社会への提言

Daigasグループのエネルギー・文化研究所 (Research Institute for Culture, Energy and Life:通称CEL) は、大阪ガス創業80周年記念事業の一つとして1986年に設立した企業内研究所です。地域の価値創造 (①地域魅力の継承・向上、②質の高い生活環境の訴求) を目的に、社会の構造分析・課題解決に向けた研究・実践・提言に取り組んでいます。

研究成果を出版物やシンポジウム・セミナーでの講演、大学での講義、新聞・雑誌等で公表するほか、行政・経済界の委員会やNPOとの協働等の社外活動にも活かしています。また、情報誌「CEL」の発行や、ウェブサイト、SNSなどの媒体を通じた情報発信にも力を入れています。さらに、大阪駅北側のグランフロント大阪ナレッジキャピタルに開設した「都市魅力研究室」を活用し、地域・コミュニティや高齢社会などをテーマにセミナーや勉強会などを開催しています。

近年は、社会福祉の観点から高齢者の就労についての調査・研究も行っています。

高齢者の社会での活躍は、本人だけでなく地域、事業者、自治体にとっても大きなメリットをもたらすと提唱し、NPO等の事業パートナーとともに、行政・事業者・団体等と連携しながら取り組んでいます。2024年3月には、大阪府内における高齢者の健康・生きがい就労等の取り組み推進のための協定を大阪府と締結しています。

社会活動団体とのパートナーシップ

地域社会には様々な社会課題があり、その問題は、高度化、複雑化しています。Daigasグループでは、「マイプロジェクト=自分ごとから始まる社会課題解決」の実践者たちを、関西のコミュニティとともに元気づけてくれる未来のパートナーと位置づけ、その活動を社会に発信し、様々なステークホルダーとの関係性を築くためのサポートをしています。



「イケフェス大阪」にて「語りベシアター公演」を開催

NPO等との協働活動

Daigasグループの大阪ガスネットワーク(株)は、2013年からNPO法人グリーンズとともにWEBマガジン「マイプロSHOWCASE関西編」を運営し、関西におけるソーシャルデザイナー・NPOの活動を紹介しています。

また、次代の社会課題解決の担い手育成を目指し、U-35世代を対象にした学びとつながりの場「Talkin'About YOUTH」(2023年～)の開催のほか、2024年度からは、Daigasグループ従業員が地域のNPO等とともに、Well-beingな社会を目指す「ソーシャルデザインDAY」が活動に加わりました。



共生社会に向けての取り組み

Daigasグループの(株)オーグス総研が中心となって取り組む「はじまるくんパソコン寄贈プログラム」活動は、パソコンリユースによる環境貢献をベースに、再生作業委託による障がい者の就労支援と寄贈先におけるIT支援を目的とした社会貢献活動です。2009年に活動を開始してから寄贈累計台数が5,589台(2026年3月末時点)となりました。2025年度は、「第16回Daigasグループ『はじまるくんパソコン寄贈プログラム』」として、近畿2府4県の107の福祉施設に「はじまるくんパソコン」180台を寄贈しました。



福祉作業所でのパソコン再生作業

お客さまとともに取り組む地域社会貢献活動

大阪ガスおよび大阪ガスマーケティング(株)では、会員制サイト「マイ大阪ガス」において、社会課題の解決に取り組むソーシャルデザインの担い手たちを応援する企画「Social Design+」を実施しています。地域の社会課題をお客さまとともに考え、支援する取り組みを行っています。



次世代教育への貢献

エネルギー環境教育

Daigasグループは、地球環境意識の高まりを背景に、2006年度から、エネルギーと地球環境問題について次世代を担う子どもたちと一緒に考え、理解を深めることを目的として、小・中・高校生を対象にした出張授業「エネルギー環境教育」を実施しています。従業員やOBが講師となり、「エコ・クッキング」※1など2種類のプログラムを活用して、出張授業を行っています。2025年からは小学校のGIGAスクール構想※2に対応すべく、小学生に人気の「うんこドリル」を採用したオンラインプログラムをスタートさせました。

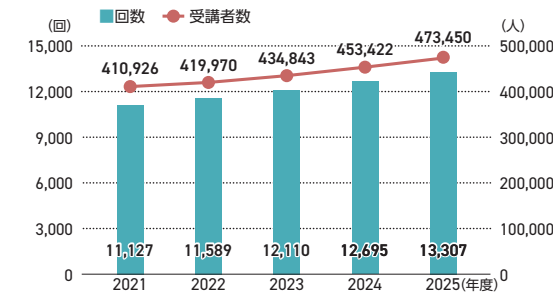
また、エネルギーや環境に関する校外学習の場としてガス科学館(泉北製造所内)を運営しています。最新の情報をご提供すべく2022年12月に内容を全面刷新しました。近隣の小中学校や地域イベントでの実験学習などで一般の方にもご利用いただいています。

2025年度のエネルギー環境教育受講者は20,028人、実施回数は612回でした。

※1 「エコ・クッキング」は東京ガス(株)の登録商標です

※2 文部科学省が推進する、1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等の学校ICT環境を整備・活用することによって教育の質を向上させ、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目的とした構想

■ エネルギー環境教育 累計実績



防災教育

東日本大震災以降、防災教育の必要性が高まったことを受け、Daigasグループでは、小学校高学年を対象に防災をテーマにしたオリジナル教材「考える防災教室」を地域の小学校へ配布しています。「考える防災教室」は、日本の自然災害について学びながら、ワークショップで災害時の暮らしの変化とその時に役立つ知恵を習得する内容となっています。中学校・高等学校・大学や自治体、地域の自治会などでも利用いただいたことにより、配布開始からの11年間で配布部数は32万冊を超えました。



左：小学校高学年用学習教材(A4・40ページ・オールカラー)
右：教師用解説書(ワークシート・授業用副教材付・A4・40ページ・オールカラー)



ワークショップ形式で災害時の暮らしの変化と役立つ知恵を習得する「考える防災教室」の様子

スポーツを通じた地域貢献

Daigasグループ従業員であり北京五輪メダリストの朝原宜治が主宰する陸上競技クラブ「NOBY T&F CLUB」では、運動・陸上競技を通じた次世代の健全育成と新たなコミュニティ創出を目的に活動しています。元オリンピックや世界大会の日本代表の経験と指導力を活かしたトップアスリートの育成にも力を注いでいるほか、シニア世代の健康増進を目的としたコースも展開しています。

また、10年以上開催してきた講習プログラムや指導ノウハウは、自治体イベントや学校授業でも活用されています。2025年からはサッカースクールを開始し、新たに「NOBY SPORTS CLUB」として地域社会に貢献しています。



「NOBY SPORTS CLUB」講習風景

冷蔵パウチのおかげで定期便「FitDish」を通じた社会貢献活動

大阪ガスは、お客さまの多様なライフスタイルやニーズにお応えするため、2023年9月から「おまかせ診断※1」と「冷蔵パウチのおかげ」を組み合わせ定期宅配(サブスクリプション)サービス「FitDish」を開始しました。

本事業の展開にあたり、地域社会への貢献の一環として、品質には問題がないものの、在庫品や売れ残り等により通常の販売が難しい商品を活用し、「こども食堂」「ひとり親家庭の支援」「フードバンク事業」などを行う5つの団体へ随時寄付※2を行っています。

今後も継続的な寄付活動を通じて、地域社会の課題解決に貢献するとともに、事業活動における「食品ロス削減」に取り組んでいきます。

※1 おまかせ診断とは、家族人数や食の好みや届けて欲しくない食材等を入力することで、自動で好みにフィットした商品をお届けするサービス

※2 2026年5月までの累計寄付数：約166,600パック



おかげで定期便「FitDish」

企業ボランティア活動「“小さな灯”運動」

Daigasグループは「地域とともに歩む企業グループ」として、これまで地域活動に積極的に参加してきました。「“小さな灯”運動」は、Daigasグループの企業ボランティア活動として1981年(国際障害者年)に始まりました。グループ従業員の募金等をもとに、「社会的養護を必要とする子ども支援」「障がい者の就労支援」「災害被災地支援」「従業員のボランティア活動支援」を行っています。

障がい者の就労支援として取り組む「ふれあいバザー」は、当社グループ内でも連携して活動場所を広げながら、多くの関係先と協働で開催しています。



御堂筋ふれあいバザー

基金運営

「“小さな灯”運動」は、「チャリティカレンダー募金」をはじめ、「御堂筋ふれあいバザー」「ブックリサイクル」などの収益金、職場・個人や大阪ガスずらん会(大阪ガスOB会)から寄せられた募金を「“小さな灯”基金」として管理し、「“小さな灯”運動」の活動や被災地支援、また、供給エリア内の全自治体へ社会福祉、教育等の目的で使用される物品(車いすや絵本等)の寄贈に活用しています。

「令和6年能登半島地震」被災地支援として「御堂筋ふれあいバザー」での古書コーナー売上を大阪ボランティア協会へ寄贈しました。

基金の2025年度の運営活動収支は、収入が7,247千円、支出は7,366千円でした。



グループ従業員、OB、その他関係先、お客さまなどが募金を行うチャリティカレンダー

“小さな灯”運動のマインドで取り組む従業員の社会貢献活動

Daigasグループの事業活動は、地域の皆さまの生活に密着しています。従業員は地域社会の一員、つまり「良き企業市民」として、地域社会に貢献しています。

献血活動や未使用ハガキや使用済切手の回収および古書販売の売上寄付のほか、地域活性化支援を目的とした市民マラソン大会のサポートボランティアなども続けています。また、2025年から被災地支援活動として「写真洗浄プロジェクト」を開始し、豪雨や台風などの水害によって泥に汚れた写真の洗浄を行い、被災された方々の思い出を救う活動を行っています。

さらに、会社から従業員に付与される福利厚生ポイントを社会活動団体に寄付する「Daigasグループカフェテリアプラン社会貢献クラブ」では、2025年度は、6団体に総額2,082千円を従業員の想いととも寄贈しました。

これらの活動を「社会貢献ポータルサイト」で発信し、地域社会貢献活動への参加活性を図っています。



従業員にボランティア活動情報などを提供する社内掲示板「社会貢献ポータルサイト」



「大阪マラソン2025」の運営サポートに6チーム70人がボランティアに参加



被災地支援活動「写真洗浄プロジェクト」に参加する従業員